

『音楽教育実践ジャーナル』 vol.17 (通巻第 30 号)の原稿募集

グローバル化やテクノロジーの発達、知識基盤社会の到来に伴い、社会に求められる教師像も変化してきています。次号の特集では、教員養成について考えます。自由投稿は、テーマにかかわらず多様な投稿をお待ちしています。

vol.17 (通巻第 30 号) の特集テーマ

音楽科教員の養成・採用・研修

—その現状と課題—

実践力育成を中核に据えた教職大学院がほぼすべての都道府県に設置されたことは、教員養成に対する社会の要請を反映するものといえます。そうした状況にあって、本特集では、特集第一の課題提起として、音楽教員に求められる「高度な実践力」とは何かという問題を、教員養成に関する改革の中身から検討すると共に、先ずは、大学における音楽教員養成という視点から探ります。教員養成とどう関わってゆくか、会員のみなさまから意見、報告をいただき、議論を展開してゆきたい、と思っております。

特集第二の問題提起として、大学での教員養成の問題に続き、教員採用（試験）と採用後の教員養成教育について議論してゆきたいと思っております。若い教員への教員研修、そこではどういった教育内容や方法が伝達されているのでしょうか。その内容を評価することを通して、新たな教員研修会の在り方を探ってゆきたいと思います。先にあげたような教員養成の改革が進行する一方で、教員の採用が新たな局面を迎えています。十年ほど前から「ベビーブーマー世代」の教員が大量退職するようになり、教員不足が懸念されておりました。その結果、学校には指導経験の浅い教師が溢れています。若い教師たちにとって先輩の授業を見て学ぶということが貴重ですが、その機会がどんどん少なくなります。それだけに、各地で開催されている教員研修会が重要な役目を果たすことになるでしょう。

特集第三の問題提起として、新しい学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」、カリキュラム・マネジメントといった視点から音楽教員養成を問い直したいと思っております。「主体的・対話的で深い学び」の考え方に基づいて、どのような音楽授業の改善が可能となるのか、この問題は教員養成の場において議論すべき重要なテーマであるといえます。カリキュラム・マネジメントの観点から考えれば、音楽と他の教科と連携してどういった授業実践を行っていったらよいのか、カリキュラム編成に関わる力量が教師に求められるようになっているのです。

社会や子どもの変化に対応し、常に自ら教育実践を省察し創造できる教師を育成することはとても大切です。音楽教育における教師の資質能力を問い直し、よりよい音楽授業を実践することのできる教員養成のあり方についての意見や情報を交換したいと考えています。みなさまの研究や実践など、多くの原稿をお待ちしています。

【投稿時のお願い】

- ・封筒に「ジャーナル特集投稿」または「ジャーナル自由投稿」と朱書し、下記送付先にご郵送ください。
- ・【別紙1】投稿申込書、【別紙2】投稿者用チェックリスト各1部（学会ホームページよりダウンロードできます）を同封し、原稿4部をお送りください。
- ・書式、字数等は学会ホームページの『音楽教育実践ジャーナル』投稿規定」および「投稿の手引き」、テンプレートに従ってください。図表、写真等も挿入スペースを文字数に換算して字数に含めます。
- ・原稿の到着後、事務局より「受領通知」をお送りします。10日以上経過して通知がない場合は事務局へご一報ください。
- ・採否については、編集委員会から2019年6月初旬までに投稿者へ連絡いたします。審議の結果によっては、修正をお願いする場合があります。

『音楽教育実践ジャーナル』vol.17(通巻第30号)への投稿は、自由投稿・特集投稿ともに、**2019年2月15日(金)必着**です。

* ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ *

✎『音楽教育学』締切のお知らせ✎

『音楽教育学』の直近の締め切りは11月15日となっております、できるだけ多くの方に『音楽教育学』へ投稿をお待ちしております(2019年8月発行の『音楽教育学』49-1号への掲載をめざします)。

* ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ *

投稿原稿は、

〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱26号
日本音楽教育学会事務局「編集担当」宛に
お送りください。

* ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ * ♪ *